

出典：<https://www.oecd.org/sdd/prices-ppp/oecd-share-in-world-gdp-stable-at-around-50-per-cent-in-ppp-terms-in-2017.htm>

仮訳作成：総務省政策統括官（統計制度担当）付国際統計管理官室

# 2017年のPPPによる世界のGDPにおけるOECDのシェアは、50%前後で安定

## 米国及び中国が最も大きな2つの経済であり、それぞれ世界のGDPの16%前後を占める

2020年5月19日

本日新たにデータ公表された、国際比較プログラムによれば、購買力平価（PPP）で表された世界のGDPにおけるOECDのシェアは、2011年から2017年（最新の基準年）までの間で50%前後で安定している。同様に、大きな新興経済（中国、ブラジル、インド、インドネシア、ロシア連邦及び南アフリカ）のシェアも、世界のGDPの30%前後で安定している。

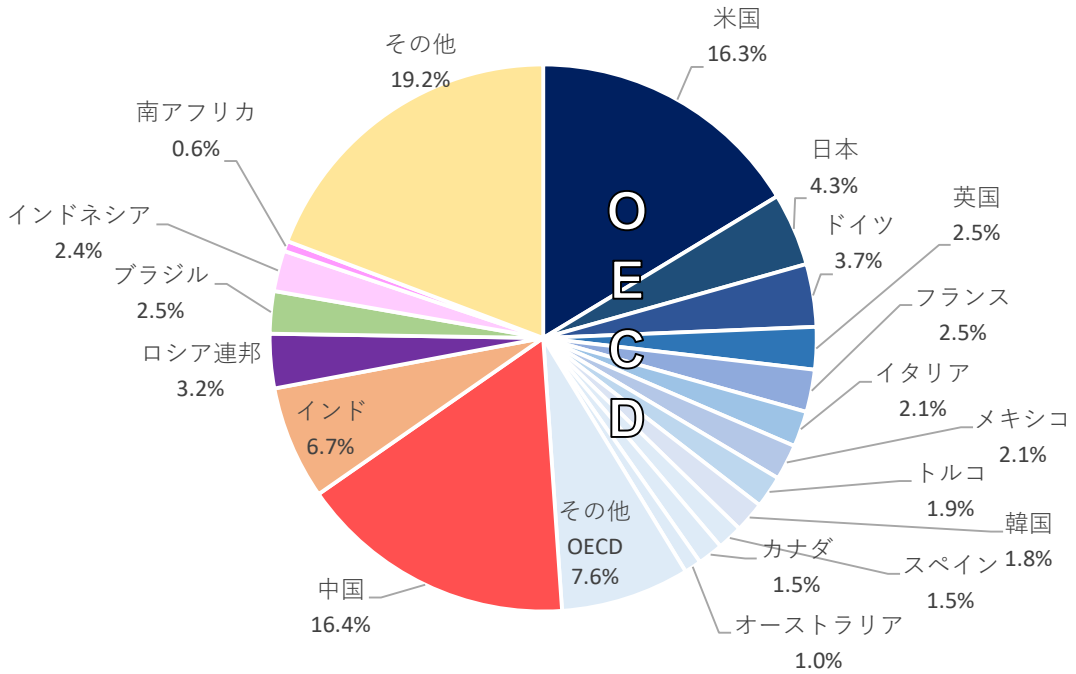
米国及び中国は、2017年における世界最大の経済であり、それぞれグローバルGDPの16%前後を占める。3番目に大きな経済はインドであり、世界のGDPの6.7%であった。

PPPは、経済活動の国際比較を可能にする適切な通貨換算レートである。為替レートと異なり、各国間の物価水準の違いを正確にするものである。高所得国で物価水準が高く、低所得国で低くなるにつれて、為替レートに基づく比較は、高所得国の規模を過大評価し、低所得国の規模を過小評価することになる。例えば、OECD地域は、為替レートに基づく通貨換算では、世界のGDPの3分の2を占めている。同様に、為替レートを使用した場合、世界のGDPにおける米国（24.5%）の割合は、中国（15.2%）よりもずっと高くなる。

本日公表された2017年のPPPには、非OECD諸国について、OECD.Statでこれまでに公開されている2017年PPP及び世界開発指標と比較して新しい情報が含まれており、それまでのものは、必然的に最新のPPP基準年からのGDPデフレーターの外挿に基づくものであった。

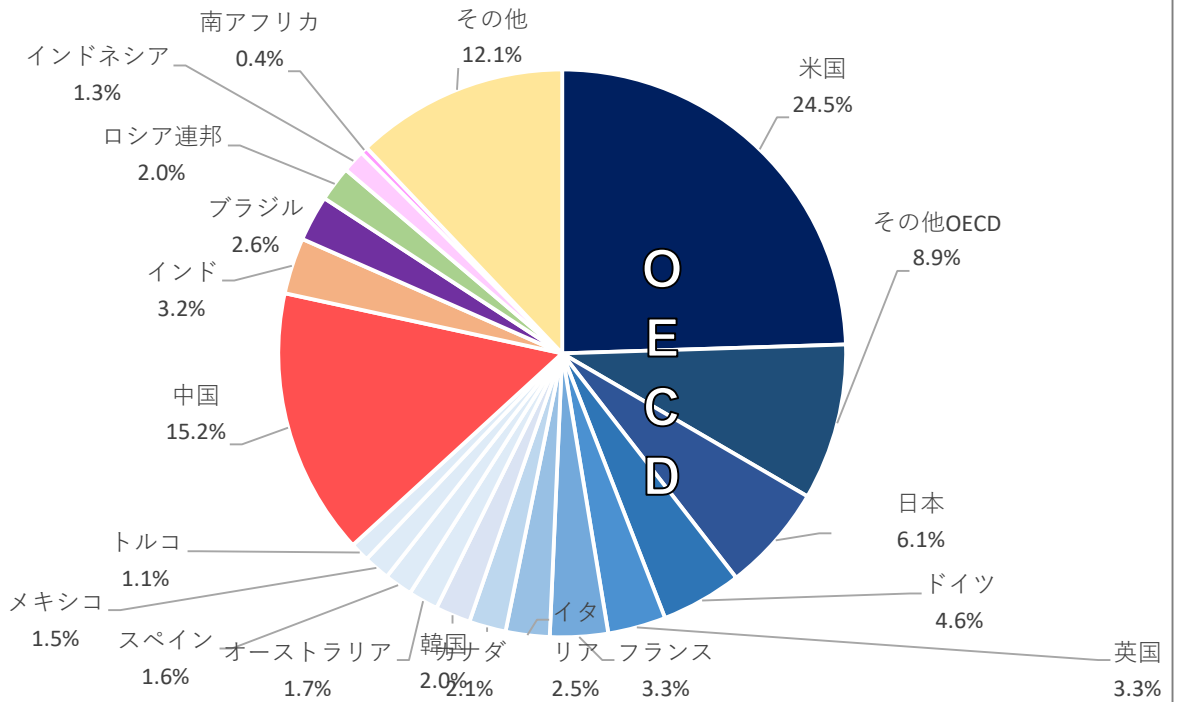
特に注目すべきは、中国の2017年基準のPPPは、外挿によるPPPと比較して18%も高いことであり、これは中国のGDPの推計も同様にPPPベースで下方修正されていることを意味する。外挿に基づく推計では、2014年に中国がPPPベースで米国を追い抜いたとされていたが、新たな基準年による推計では、2017年両国の経済は同規模であるという、異なる様相を見せている。これは、外挿による推計値を比較する際には注意が必要であるということを想起させるものである。外挿による測定値の影響に対処する一環として、現在準備中の次回のICPラウンドは、2021年を基準年として実施される予定である。

### PPPに基づく世界のGDPのシェア（2017年）



出典：2017年国際比較プログラム（ICP）

### 為替レートに基づく世界のGDPのシェア（2017年）



出典：2017年国際比較プログラム（ICP）

## 特定の国※における2017年ICPの結果概要

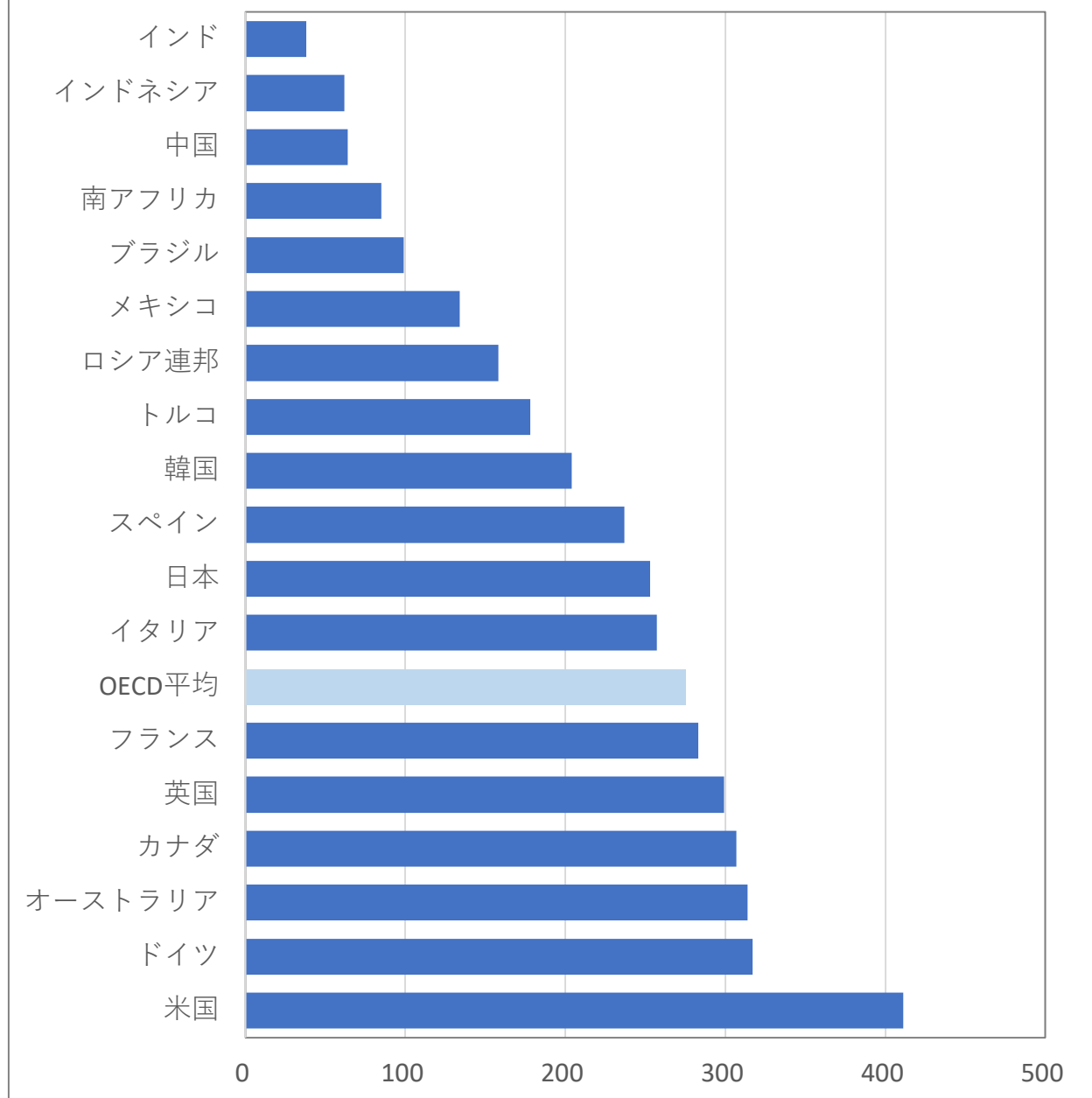
	為替レート (自国通貨建て米ドル当たり)	PPP (自国通貨建て米ドル当たり)	価格水準 指数 (自国通貨建て米ドル当たり)	一人当たり GDP指数  PPPベース 世界=100	AIC(実質 個別消費)のPPP	一人当たり AIC指数  PPPベース 世界=100	人口 (100万人)
<b>OECD</b>			129	262		275	1344.0
オーストラリア	1.305	1.466	168	302	1.469	314	24.6
カナダ	1.298	1.205	139	293	1.226	307	36.5
フランス	0.885	0.766	130	269	0.774	283	67.1
ドイツ	0.885	0.741	125	319	0.743	317	82.7
イタリア	0.885	0.687	116	252	0.732	257	60.5
日本	112.2	105.4	141	246	105.9	253	126.7
韓国	1130	871.7	116	247	902.7	204	51.4
メキシコ	18.9	8.871	70	121	8.713	134	123.4
スペイン	0.885	0.630	107	239	0.671	237	46.5
トルコ	3.648	1.373	56	170	1.373	178	80.3
英国	0.776	0.682	132	277	0.747	299	66.0
米国	1.000	1.000	150	361	1.000	411	325.4
<b>ブラジル</b>	3.191	2.182	103	87	2.168	99	207.8
<b>ロシア連邦</b>	58.34	24.05	62	157	21.92	158	146.8
<b>インド</b>	65.12	20.65	48	37	18.96	38	1309.2
<b>インドネシア</b>	13381	4696	53	67	4706	62	261.9
<b>中国</b>	7.759	4.184	93	85	4.046	64	1386.4
<b>南アフリカ</b>	13.31	6.427	72	78	6.166	85	57

※ この表に掲載しているOECD諸国は、世界のGDPに占めるシェアが1%を超えるものを含めている。  
出典：2017年国際比較プログラム (ICP)

具体的なPPPは、各国間における世帯の物質的ウェル・ビーイングの比較について示唆を提供するための、一人当たり実質個別消費 (AIC) の尺度としても適用できる。

OECD地域では、一人当たりのAICの平均は、2017年の世界平均よりも2.75ポイント高かった。大規模経済における一人当たりAICでは、米国が最も高く、世界平均の4倍超、インド平均の11倍近く、そして中国平均の7倍近くであった。

### 一人当たり実質個別消費指数（2017年）（世界平均 = 100）



出典：2017年国際比較プログラム（ICP）

上の結果のベースとなっている国際比較プログラム（ICP）は、世界最大級の統計パートナーシップである。国際比較可能な価格を収集する、176の国及び地域機関が参加している。これらすべての国にとって、ICPはGDP及びAICなどその構成要素について、PPPに基づく量の尺度を提供している。OECDはICPのパートナー機関である。Eurostatとともに、OECDは2017年基準のGDPに対するPPP及び49か国の最終消費を算出した。これらの基準年のPPPは、世界のICP比較に含まれていた。

（以上）